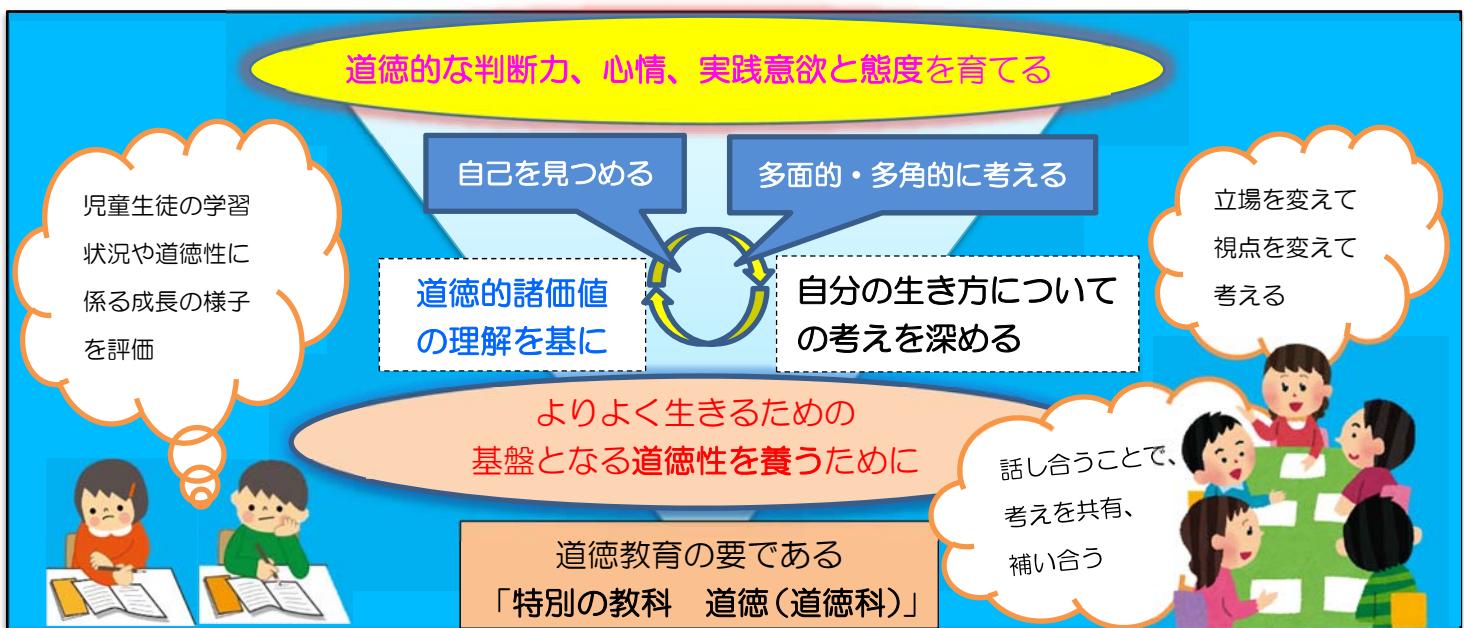


自立した人間として
他者と共によりよく生きる

「考え方、議論する道徳」 授業へ向けて

「特別の教科 道徳（道徳科）」の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、
道徳的諸価値についての理解を基に、
自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方
についての考えを深める学習を通して、
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。※（ ）内は中学校



道徳的諸価値の理解って何？

価値理解…よりよく生きる上で道徳的価値は大切なことであると理解すること。

人間理解…道徳的価値は大切ではあるが実現は難しいことや人間の弱さなども理解すること。

他者理解…道徳的価値の実現には多様な感じ方・考え方があることを理解すること。

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、
自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を
多面的・多角的に考える。

「考え、議論する道徳」の授業づくり

教師が児童生徒に何を考えさせたいのかを明確に
もち、児童生徒の実態を把握することが大切です。



年間指導計画を基に、教師が児童生徒に何を考えさせたいのか、何に気付いてほしいのか、などをしっかりとと考え主題を設定します。

主題を設定することで、授業のねらいや指導内容についての教師の捉え方が明確になります。

主題の設定

児童生徒が、授業で考える道徳的価値について、その時点でどのような価値観をもっているのかをアンケートなどを使って把握します。これは、児童生徒の実態にあった学習指導の検討につながります。授業後に児童生徒の変容を見取る際にも役立つことができます。

児童生徒の 価値観の把握

児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

- どのようにして道徳的価値の理解を深めるか。
- 道徳的価値の理解を深めるのにふさわしい場面はどこか。など

教材の吟味

授業の終末では、ワークシートに感想などを書かせることができます。

その際、単に授業の感想や振り返りを記述させて終わりとならないように、「**今日の授業を振り返って、『今』どう思う（考える）ようになったか。**」など、児童生徒が自分自身の感じ方や考え方の変化を自分の言葉で書けるように、問い合わせ方を工夫することも大切です。

ワークシートの工夫

次のような視点をあたえることで、授業を通して自分自身の変化に気付かせることもできるようになります。

- 授業のねらいとしていた道徳的価値について考えることができたか。新しい気付きはあったのか。
- 中心的な発問に対して、自分のこととして考えることができているか。
- 中心的な発問に関する話合いで、多面的・多角的に考えたり発言したりできているか。

このような問い合わせることで、授業のねらいとしていることが、十分達成できたかを教師が確認できます。



中心的な発問は、授業の主題となっている道徳的価値について子どもたちが深く考え、追求していくような問いを指します。具体的には、
・「〇〇という判断をしたけど、自分ならどうするか。」
・「主人公のしたことは、本当に良いことか。」のような発問になります。



まずは、主題に迫る中心的な発問を考えます。次にそれを生かすためにその前後の発問を考えます。

中心的な発問は、一問一答型の発問ではなく、児童生徒の多様な答え（感じ方や考え方）が導かれるような問いになります。

主題に迫る 授業構想

導入の工夫

- ・ 主題に関わる問題意識をもたせます。
- ・ 教材の内容に興味や関心をもたせます。

展開の工夫

- ・ 道徳的価値に対する児童生徒一人一人の感じ方や考え方を交流させたり、自分との関わりで考えを深めさせたりする学習にしましょう。

終末の工夫

- ・ 児童生徒一人一人が、自らの感じ方、考え方の変化や明日への課題などを実感でき確かめることができますようにしましょう。

発問の工夫

児童生徒に対して「本当にそうなのか」と問いかけることで、新たな感じ方や考え方を促すことができます。

「なぜ（どうして）～なのか」 根拠や理由について考える問い合わせ

「そもそも～とは何だろう」 根拠や理由について改めて考える問い合わせ

多様な指導方法の工夫

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

問題解決的な学習

道徳的行為に関する
体験的な学習

※ 多様な指導方法の一例であり、それぞれが独立した指導の「型」を示しているものではありません。

※ 指導のねらいに即して、適切に取り入れることが大切です。

「考 え、 議 論 す る 道 徳 」 授 業 へ



道徳的行為に関する体験的な学習

教材名

「くりのみ」

◆ねらい

うさぎの優しさにふれ、涙をこぼすきつねの思いを考えることを通して、相手の立場を思いやり、互いに助け合っていこうとする心情を養う。

◆対象学年 小学校 低学年

→內容項目 B- (9) 友情、信賴

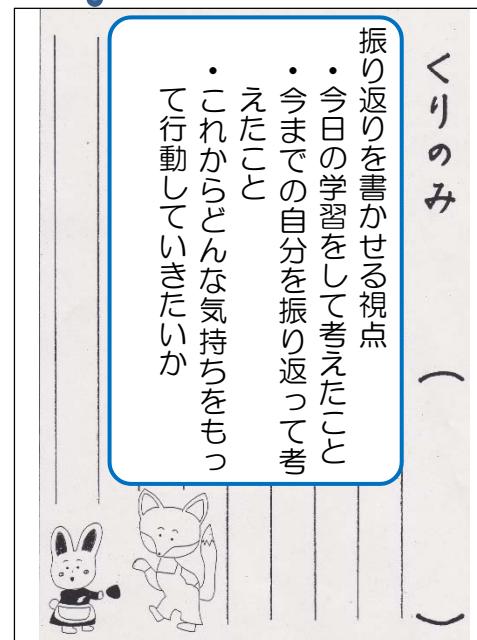
役割演技の流れ

- ① 二人組で役割演技を行う。
 - ② 役割を交代する。
 - ③ 代表役割演技を行う。
 - ④ 演じた児童が、演じていたときに思ったことを発表する。
 - ⑤ 観客（見ていた児童）が、感じたこと・考えたことを発表する。

代表役割演技の様子

- A これをどうぞ。
 - B ありがとう。えーん、えーん。
 - A どうして泣いちゃうの？
 - B ぼく、嘘をついたの。
 - A なんで？何を？
 - B ぼく、嘘ついたから取ってくる。（どんぐりを取りに行く。）ほらいっぱいある。
 - A どうして隠したの？
 - B ぼくのものと思って・・・。
 - A なんで私に言わなかつたの？
 - B ぼくは、隠したかったんだ。だから、ぼくの心は黒くなってる。
 - A そんなこと思つてゐるの。許してあげようか。
 - B うん。（礼をする）どんぐりは分けよう。（どんぐりを分けるしぐさをする）

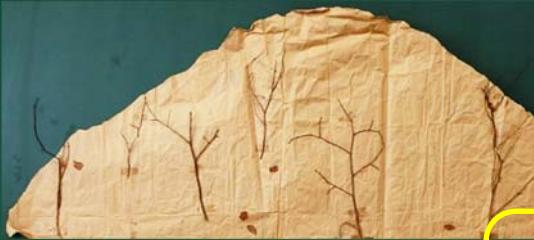
ワークシート



卷之三



役割演技



な人はもがくてはらへこてす



ぐりのみ

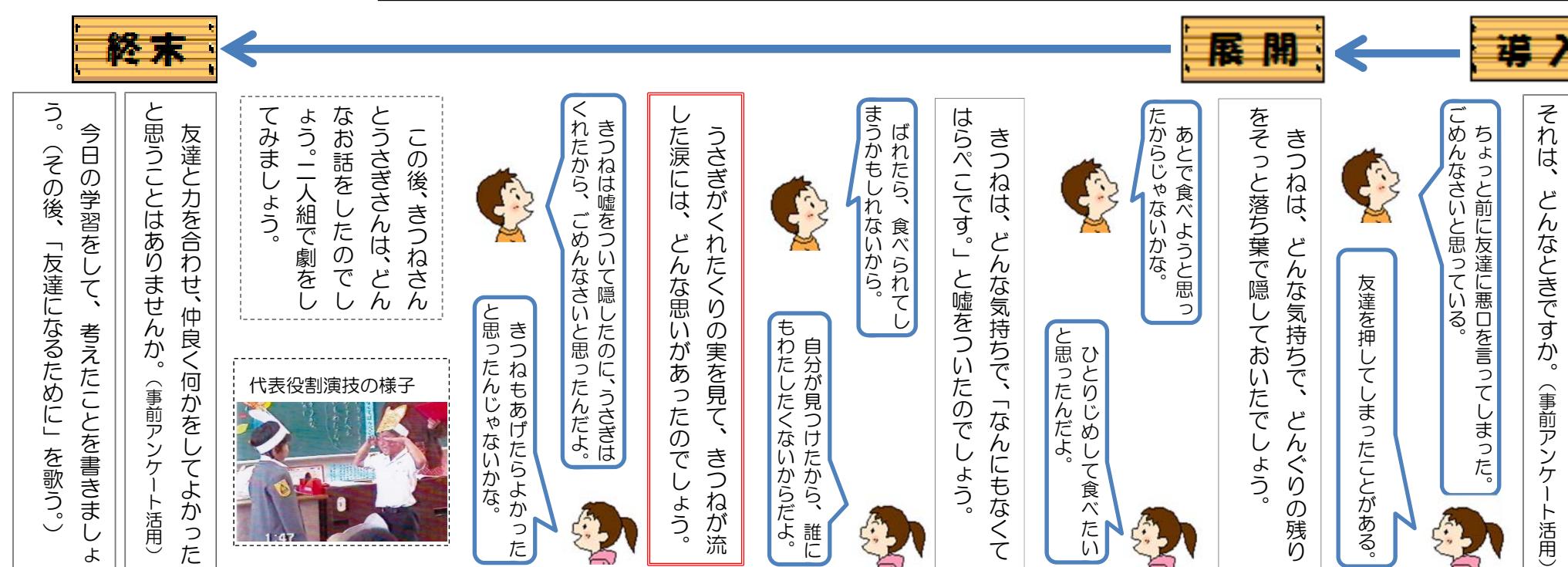
- ・うれしいな。
 - ・あとでたべよう。
 - ・ぼくのものだ。
 - ・かくしておこう。

板書

友達と仲良くなれなかったことはありますか。それは、どんな理由ですか。（事前アンケート活用）

抗元義局之抗運 二二

板書の中の番号と対応しています。



◆評価について

- ・登場人物の心情を十分理解している児童を代表役割演技の演者に選ぶ。
- ・役割演技そのものを目的とするのではなく、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深められるようになります。
- ・これが重要な点である。

【役割演技の活用】

- ・二人組で役割演技を行うことや、あるいはひとりひとりがそれぞれの気持ちを実感させ、道徳的価値についての考え方を深めさせること
- 【効果的な役割演技】
 - ・役割演技の第一歩は、あらかじめ言葉を設定しておいてスムーズに進められる場面を用いる。

②自分の事として捉え、
 ●あつねといつわの関係や
 ●状況を理解せねじと
 ●が、中心的な発問に對す
 ●る點々を深めてせむじと
 ●につながる。

問題解決的な学習

教材名

「ブランコ乗りとピエロ」

◆ねらい

謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする態度を育てる。

◆対象学年 小学校 高学年

◆内容項目 B-（11）相互理解、寛容

問題解決的な学習の流れと発問

【問題の発見や道徳的価値の想起】

- ★ 資料や生活の中から道徳的な問題を見つける。
「〇〇をあなたは、どう考えますか？」
- ★ 自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問い合わせをもつ。
「〇〇とは、なんだと思いますか？」

【問題状況の確認・問題解決に向けての話し合い】

- ★ 道徳的な問題について、自分の体験やその時の感じ方や考え方をもとに、グループなどで話し合う。
「ここでは、何が問題になっていますか。」「なぜ、このようなことになってしまったのでしょうか。」
- ★ 道徳的な問題場面に対するよりよい解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。
「あなたなら、どう行動しますか。」「よりよい解決方法には、どのようなものが考えられますか。」

【解決策の選択、道徳的価値の深化・課題発見】

- ★ 話合いの中で大切にした道徳的価値について、考えを深める。
「どうして、そう考えましたか。」「解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意味や意義への理解を深める。
「どのような解決策を選んだのは、なぜですか。」「どんなことを考えたからですか。」
- ★ 振り返って、自分の課題を導き出す。
「これからの自分はどうしたいですか。」

ワークシート

「ブランコ乗りとピエロ」 道徳ワークシート
年組()

サムのことをどう思いますか。あなたなら、許せますか。それはなぜですか。

許せる・許せない

【理由】

ピエロがサムを許すことができたのは、なぜだと思いますか。それはどんな心からですか。

生活を振り返って、「広い心」について感想を書きましょう。



板書

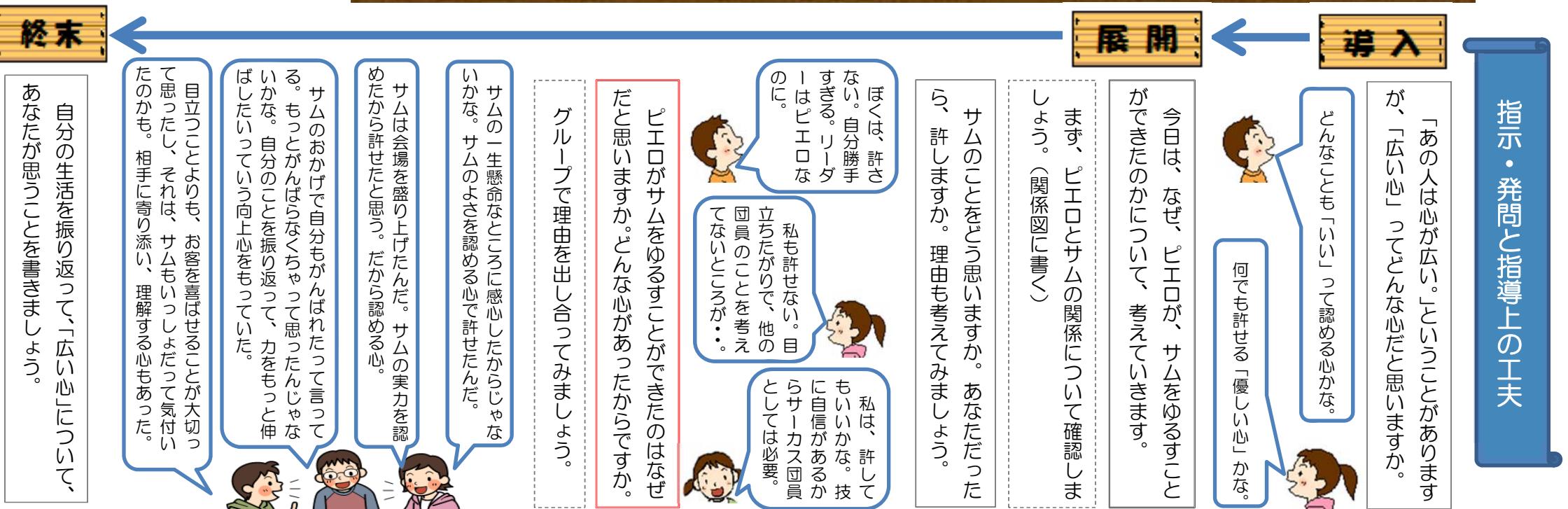
ブランコ乗りとピエロ

ピエロがサムを許すことができたのは、なぜか

指示・発問と指導上の工夫

「あの人は心が広い。」ということがありますが、「広い心」ってどんな心だと思いますか。

どんなことも「いい」って認める心かな。



【主題に関わる発問】

①これまでの道徳的価値の捉えを確かめるため

・初めに「広い心」について聞くことで、主体的に答えるよう促すことが大切。

【人間関係を捉える発問】

②中心的な発問に対する考え方を深めるために

・中心人物であるピエロとブランコ乗りのサムの関係や、状況を理解させることで、実際にはピエロのとした行動は難しいことを感じさせる。

【自己にとどって身近な問題として捉えるため】

③自己にとどって身近な問題として捉えるため

【「ネームプレートの活用】

④道徳的価値の意味への理解を深めるために

【グループでの話し合い】

⑤評価について

【評価について】

⑥なぜ朝まで一緒にいるのか。

【評価について】

⑦人の関係をよりよくするためには、どうすればいいか。

【評価について】

⑧他に考えられる中心的

【評価について】

⑨授業の最初と最後での「広い心」に対する考え方を比較して、自分の生活を振り返って感想を書かせる。その記述内容などを通じて、学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る。

情報モラルに関する学習

教材名

「言葉の向こうに」

◆ねらい

相手の立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容な心をもとうとする態度を育てる。

◆対象学年 中学校

◆内容項目 B- (9) 相互理解、寛容

交流活動の仕組み方

★ 何について話し合わせるかを、授業の「ねらい」をもとに、しっかりと吟味する。

- ①自分の考えをもつ
- ②ペア、グループで話し合う
- ③全体で共有する
- ④自分の考えをもつ

※ 交流活動を取り入れる目的は、自分の考えを深めたり広げたりするため。最後は、自分に返すということが大切。

コミュニケーションの在り方

今後、電子メールやSNSという通信手段で、同じ興味や関心をもった人と交流していくことが多くなる子どもたち。そのため、インターネットの魅力を体験する一方で、様々なトラブルに遭遇する可能性が高くなる。現に、「ネットいじめ」と言われるものが、後を絶たない。言葉だけを介して交流することで誤解が生まれていることが、原因の一つになる。

だからこそ、自分が発した言葉の向こうに、それを受け止める他者がいることを想像させなければならない。今こそ、今後益々発展していくネット社会でのコミュニケーションの在り方を考えさせなければ!!

ワークシート

「言葉の向こうに」 道徳ワークシート
年 組 ()
「言葉の向こうにいる人の顔を思い浮かべる」とはどういうことだろう。

発見した「すごいこと」とはどんなことだろう。

今日の学習で分かったこと、学んだことを書きましょう。

「言葉の向こうに」

発見した「すごいこと」って何だろう。

生徒の実態調査の結果
(グラフや数値など)
※電子黒板と組み合わせて活用

<グループA>
いろいろな考えを認めることが大事だ。

<グループB>
言葉だけが人の気持ちの全部ではない。

<グループC>
悪口はいけない。冷静になることが大切だ。

<グループD>
言葉の奥にある人の気持ちを考えること。

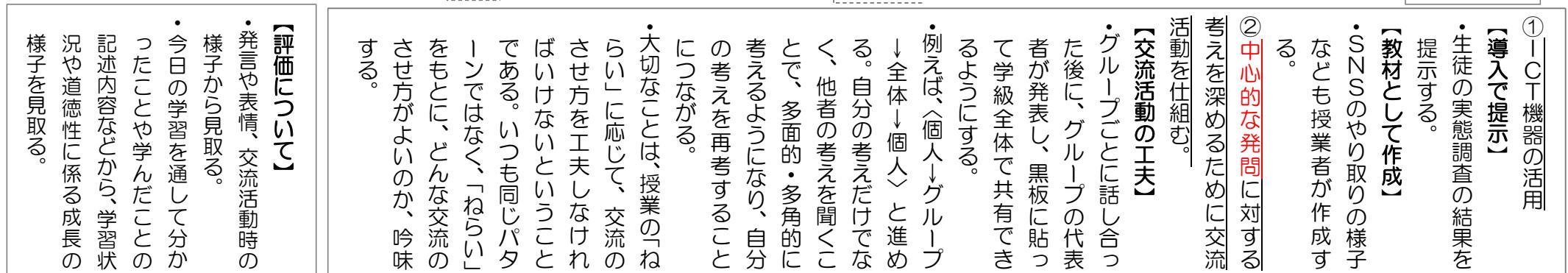
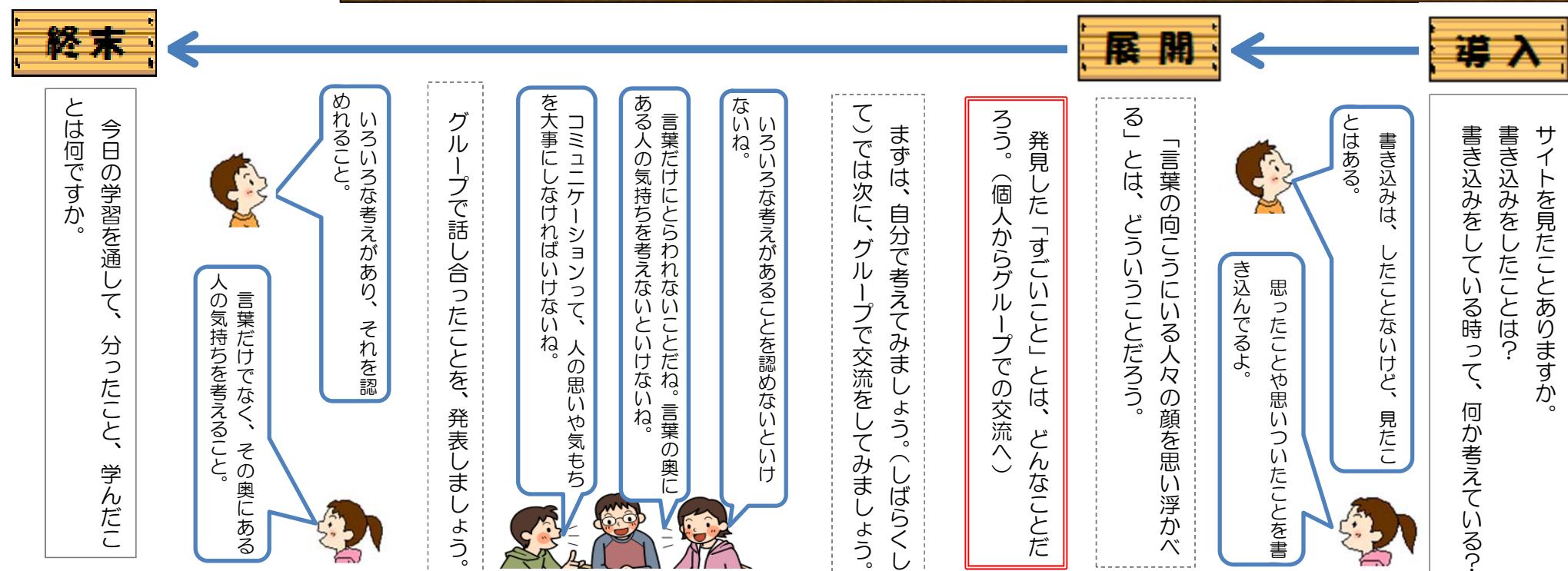
大切なことは

- ・言葉だけにとらわれないこと。
- ・いろいろな考えを認めること。
↓
人の思いや気持ちを大事にする。

板書

指示・発問と指導上の工夫

サイトを見たことがありますか。
書き込みをしている時って、何か考えている?
書き込みをしていますか。





■ 評価の意義

- ① 教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となる。
- ② 児童生徒にとっては、自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくものとなる。

指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなくてはならない。

■ 道徳科の評価の在り方

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め認め、励ます個人内評価として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと

評価の視点

道徳科の評価では、「児童生徒の学習状況」、「道徳性に係る成長の様子」について、記述することになります。

その際、次の2つの視点に着目することが重要です。

- 他者との考え方や議論にふれ、自律的に思考するなかで、一面的な見方から「多面的・多角的な見方へと発展」しているか。
- 多面的・多角的な思考のなかで、道徳的価値の理解を「自分自身との関わりの中で深めて」いるか。

★ 一面的な見方から「多面的・多角的な見方へと発展」させていることに関する視点の例

- ・ 道徳的価値に関する問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。
- ・ 自分と違う立場や考え方、感じ方を理解しようとしていることに着目する。
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。

★ 道徳的価値の理解を「自分自身との関わりの中で深めて」いることに関する視点の例

- ・ 教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。
- ・ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考え方を見直していることがうかがえる部分に着目したりする。
- ・ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めていることに着目する。
- ・ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていることに着目する。

児童生徒の授業中の発言や会話、作文、感想文、ワークシートなどから見取るようになります。

記述が苦手だったり、悩んだり、迷ったりして記述できないこともあるかも知れません。発言や記述でない形で表出する児童生徒の姿に着目することも重要です。

